

JA全農ETセンターニュース平成17年3月号

今月号は人工授精による双子妊娠牛の問題に関する話題を提供させていただきます。
馬では双子妊娠の場合、64%のケースで胎子数が減少することが知られています。また肉牛の2卵移植後の33%で胎子数が双子妊娠確定後に減少するという報告もあります。しかしながら牛の双子妊娠における流産等の情報は少ないのが現状です。今回はスペインのLopezとHunterが今年のTheriogenology 63(2005)118-125に興味ある報告をしていますので、紹介させていただきます。

人工授精後、36-42日目に、超音波診断器を用いて妊娠鑑定を実施し、双子を妊娠している泌乳牛211頭を妊娠日令90日までは1週間に1回超音波診断を行い、それ以降は流産または分娩するまで毎日、妊娠牛の状態を観察・記録した。

以下の表に結果を示します。

表 双子妊娠牛における妊娠日令90日までの流産、単または双胎子の死滅率

	両側子宮角 での双子 (%)	右子宮角 での双子 (%)	左子宮角 での双子 (%)	合計 (%)
頭数	86(40.8)	74(35.1)	51(24.2)	211
流産/発情回帰	7(8.1) a	24(32.4) b	20(39.2) b	51(24.2)
単胎子死滅*	8(9.3)	16(21.6)	11(21.6)	35(16.6)
双胎子死滅**	6(7.5)	4(25)	3(27)	13(37.1)

a,b = P<0.01以下で有意差あり

* 双胎子のうち1頭の胎子のみ死滅 = 妊娠は継続している(単胎子死滅頭数/双子妊娠頭数)

**単胎子死滅でさらにもう1つの胎子が死滅 = 流産したもの(双胎子死滅頭数/単胎子死滅頭数)

今回のデータはリピートブリーダーのための2卵移植あるいは追い移植を実施する際の貴重な参考データになると思います。

まず、同側子宮角で2つの受精卵が妊娠した場合の流産率は32.4から39.2%と両側子宮角に1つずつ妊娠した場合(8.1%)に比べて、有意に流産率が高いこと、しかし、単胎子が死滅しても、もう1つの胎子が流産するケースは両側子宮角での双子で高いデータが示されている。

現場で追い移植を実施する際、AI後のETは非黄体側にETを行ったほうが、流産防止の観点からはベターであると考えられます。何らかの参考になれば、幸いです。